

「生体医工学」執筆要項

(2005 年 9 月)

1. 体 裁

特集論文の書き方を参照してください。

原稿執筆は横書きとし、ワープロソフトを使用して A4 判用紙に、~~1 行の文字数 (40 字) および 1 ページの行数 (40 行)~~ で、1 行の幅がおよそ 15 cm、始行から終行までの幅がおよそ 23 cm になるよう字間、行間を空けて印字する。

2. 表 題

原稿用紙第 1 ページの 5 行目より、下記の例に従って表題、著者名、受付日、所属機関名称を書く。

ただし、受付年月日は本会で記入するので空けておく。表題はできるだけ簡潔に書く。やむを得ず題名が 18 字を超えるときは、省略題名を例にならって書き添える。

(例) 2 次元画面指標追跡による手の随意運動機能記録処理法

戸田 太郎*・山中 二郎**

年 月 日受付

* 大阪大学工学部電気工学科

** 日東電気工業 (株) 研究部

指標追跡による手の運動機能記録処理法 (略題)

3. 要 旨

特集論文の書き方を参照してください。

3.1 「研究」および「研究速報」には英文要旨 (以下 abstract と称する) を ~~2 ページ目~~ につける。Abstract の語数は 300 語以内とする。

3.2 Abstract は、本文と切り離しても論文の主な内容と結論がわかるように書く。とくに本文中の図や式、文献の引用はしない。Abstract は抄録誌などにそのまま掲載されることがあるので、十分注意して丁寧に書き、native speaker のチェックを受ける。

3.3 Abstract には下記の例に従って、英文タイトル、ローマ字著者名、5 個以内の keyword、英文所属機関名称を添える。

(例) **Development of Fuzzy Blood Pressure Control System**

Taro TODA,* Jiroh YAMANAKA**

Abstract Fuzzy blood pressure control system has been……

Keywords: blood pressure, , fuzzy control.

Received

*Department of Electrical Engineering, Faculty of Engineering, Osaka University

**Research Division, Nitto Electric Industries Ltd. 特集論文の書き方を参照してください。

3.4 Abstract にはこれに対応する日本文要旨を ~~3 ページ目~~ に添える。和英両要旨の内容はよく対応していなければならない。日本文要旨は abstract の英文を校閲するときの参考にするもので、印刷はされない。

3.5 「研究」の Abstract は、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) の文献データベースの作成に提供されることをご承知おきください。

4. 本 文 特集論文の書き方を参照してください。

4.1 本文は原稿用紙第 ~~4 ページ目~~ から書く。

4.2 見出しの付け方は次のとおりとする。

- ・章の見出し: 1., 2., ……とナンバーをつけて、行の中央に書く。
- ・節の見出し: 1.1, 1.2 ……とナンバーをつけて行頭から書き、次の行から本文を始める。
- ・項の見出し: 1.1.1, 1.1.2 ……とナンバーをつけて行頭から書き、2 字空けてから本文を続ける。

• 目の見出し: 1), 2), ……とナンバーをつけてから行頭を書き, 1 字空けてから本文を続ける。

- 4・3 本文は原則として常用漢字, 新仮名遣いによる。術語は学会等で一般に用いられているものおよび文部科学省, JIS で制定されたものを用いることが望ましい。人名, 日本語になりきっていない術語などは原則として原綴りで書く。ただし, 一般化している外来語についてはカタカナ表記とする。
- 4・4 単位はできるだけ国際単位系 (SI) を用い, CGS 単位系と併用しないほうが望ましい。
- 4・5 量をあらわす記号はすべてイタリック, 単位および元素記号はすべて立体とする。
- 4・6 括弧の順序は, $[\{ () \}]$ とする。
- 4・7 原稿はできるだけ簡潔に書き, 式の変換, 実験資料の呈示などが冗長にならぬように注意する。

5. 脚注, 引用文献

- 5・1 脚注は *, ** などの記号で示し, 原稿用紙の下欄に書く。脚注は必要最小限に留める。
- 5・2 文献の引用は, 本文の引用箇所の出現順に通し番号 [1], [3, 5], [7-10] 等をつけ本文の末尾に一括して記載する。
- 5・3 文献の記載例

著者名は姓・名ともに全員を記載し, 文献題目も省略せずに書く。単行本の場合には, 翻訳があれば原著の後に記す。巻数はボールドにし, 次の形式にならう。

雑誌の場合:

1. 山田太郎, 上田次郎: CT 画像を用いた形成外科手術計画支援システム. 生体医工学. **43** (1): 337-342, 2005.
2. Kohne KH, Yamaguchi T, Bernstein R: Interactive methods for nonlinear optimization problems. IEEE Trans Med Imag. **MI-5** (1): 45-47, 1986.

単行書の場合:

3. Born M, Wolf E: Principles of Medical Engineering, 2nd ed. Pergamon Press, New York, 1988, pp. 69-94.
4. 山田太郎: 生体医工学の新しい地平. ○○出版, 東京, 2005, pp. 5-15.

分担執筆による単行書の場合:

5. Chandler S: Adaptive model control applied to realtime blood pressure regulation. In: Black C ed, Pattern Recognition and Machine Learning. McGraw-Hill, Berlin, 1985, pp. 310-324.
6. 上田光宏: 超音波組織診断. 日本超音波医学会編, 超音波診断. 医学書院, 東京, 1994, pp. 48-52.

Proceedings 等の場合:

7. Heel N: Automated blood pressure control using a self-tuning regulator. Proc of NCGA'S Computer Graphics Conference '87, Vol. 2. Am Med Eng Soc, New York, 1988, pp. 152-161.
8. 山田太郎: ××××××(標題). 生体医工学シンポジウム 2004 予稿集(CD-ROM). 日本エム・イー学会, 札幌, 2004.

特許文書の場合:

9. 山田太郎: 特公昭 60-1234, 1985.
10. White AG: US Patent No. 1234567, 1982.

インターネット上の文献の場合

11. ウェブページ製作者あるいは著者(PDF の場合など): ウェブページ名あるいは文書名(PDF の場合など). $\langle \text{http://www.XXXX.com/yyy/bbb.htm} \rangle$ (URL) [accessed March 8, 2001] (閲覧日時)

- 5・4 文献は, 一般に検索可能な公刊文献に限り, 入手困難, 検索不可能な文献はさける。(文献として引用できないものの例: 社内資料, 未発表論文, 公刊されない学位論文, 私信, カタログ等)

6. 図・写真・表 **特集論文の書き方を参照してください。**

- 6・1 図, 表中の文字は英文 (原則として小文字を使用) で書く。
- 6・2 ~~図および表は 1 図, 1 表ずつ別紙にする。図と写真は図 1, 図 2 …… (Fig. 1, Fig. 2 ……) のように, 表は表 1, 表 2 …… (Table 1, Table 2 ……) のように出現順に通し番号をつける。いずれも 1 枚ごとに著者名を入れる。図と写真との区別をせず, 図で統一する。~~

- 6.3 ~~図、表の用紙、写真の台紙はA4判用紙に統一する。~~ **特集論文の書き方を参照してください。**
- 6.4 ~~図、表の挿入箇所はおよその位置を本文の原稿用紙の右欄外に朱記する。~~
- 6.5 ~~図、表の説明文は和文英文併記とする。図の説明文は、必ず図とは切り離して別紙とし、図の連番号順にまとめる（和文と英文とを別紙にまとめてもよい）。表の説明文は各表の上に、注（英文のみ）は表の下に書く。~~
- 6.6 ~~原図の大きさは刷上りの2～3倍とする。図中の文字、記号の大きさは刷上りで、高さが2 mm程度になる大ききさで書く。~~
- 6.7 ~~写真は図に準じて取り扱う。ただし、大きさは刷上りとほぼ同じであるか、大きめであることが望ましい。必ず印画紙に焼き付けたものか、これに相当する高品質のプリントアウト媒体を提出する。ネガフィルムは受け付けない。~~
- 6.8 ~~カラー印刷を希望する場合、その費用はすべて著者が負担する。費用は図版の数により異なるが、いずれにしてもかなり高額となるので事前に編集部あて照会することが望ましい。~~
- 6.9 ~~図版・写真は、特別な事情がない限り返却しない。~~

7. 著者校正 **査読プロセス段階では関係ありません。**

著者校正は1回限りとする。その際、誤植以外の修正、図版の修正は認められない。校正刷りは到着後2日以内に返送すること。これに遅れた場合は編集部の校正をもって校了とする。

8. 超過頁代・別刷代

8.1 超過頁代

原稿の種類と、それぞれの刷上り規定ページは次のとおり。

研究：6 ページ 研究速報：4 ページ 資料：2 ページ

文字だけの場合、約 2,500 字で刷上り 1 ページになる。

特集論文の書き方を参照してください。

~~規定頁を超えた場合、超過分1ページ当り 20,000 円が超過頁代として請求される。シンポジウム特集などの特別企画の場合は、掲載料を別途定める。~~

8.2 別刷料

別刷は 50 部の倍数で請求できる。別刷請求者は別刷の費用を全額負担する。別刷代金は別途定める。

9. 投稿論文の撤回

- 9.1 ~~審査中の論文が訂正などのために著者の手許に返されたまま 3 カ月を経過した場合には、原則としてその論文は撤回されたものとみなす。~~
- 9.2 ~~著者がやむを得ない事情で、すでに印刷に回った論文などを撤回した場合には、著者はその実費を負担しなければならない。~~

10. 投稿にあたって

10.1 原稿提出数

特集論文の書き方を参照してください。

~~E-mail にて、PDF ファイルを送付する。ファイルは、本文（表題、要旨、文献、図表説明を含む）と図表を別にすることが望ましい。なお、郵送の場合には、正 1 部と論文審査用の副 2 部、計 3 部を送付する。副 2 部はコピーでよいが、写真についてはこれが審査の主要な対象となるときは、副 2 部にも印画紙に焼き付けたものを添付することが望ましい。~~

10.2 投稿票と誓約書

~~規定の投稿票と誓約書（次頁以降に掲載、コピーの利用可）に必要事項を記入し、送付する。E-mail 投稿の場合には、投稿票を原稿とは別の PDF ファイルとして添付する。誓約書は別途郵送する。郵送による投稿の場合には、投稿票と誓約書を正原稿に添付する（副原稿 2 部には不要）。~~ **特集論文の書き方を参照してください。**

10.3 原稿送付先・連絡先

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 （財）学会誌刊行センター内

「生体医工学」編集部

E-mail: tjsmbe@capj.or.jp Tel : 03-3817-5821 Fax : 03-3817-5830

「生体医工学」投稿票

[*は記入しないこと]

* 受付No.

* 年 月 日受付／ 年 月 日改訂／ 年 月 再改訂

1. 原稿の種類 (執筆原稿に○印) 研 究 ・ 研究速報 ・ 資 料

2. 題 名

[邦文]

[英文]

3. 著者名 (連絡責任者左肩に○印)

[会員番号]

[氏 名]

[ローマ字]

4. 所属機関名称

[和文]

[英文]

5. 連絡先 (住所・機関名称)

〒 -

Tel: - - 内線 Fax: - -

E-mail:

6. カラー印刷希望 有 ・ 無

7. 原稿枚数

本文 (含表題・要旨・文献)____枚 図説明____枚 表____枚 図 (含写真)____枚

8. 手元にコピー 有 ・ 無

9. 原稿は執筆要項に従って書いてありますか。とくに次の事項をチェックし、レ印を付けてください。

☐ 引用文献の書き方は執筆要項に従っていますか。☐ 図、表の挿入箇所を原稿用紙の右欄外に指定してありますか。

年 月 日

論文名：

[illegible]

※著者の全員についてご記入下さい。署名は自筆でお願いします。共著者多数で本欄に記入できない場合はコピーしてお使い下さい。